

石心会グループ

社会医療法人財団 石心会

社会福祉法人 石心福祉会

医療法人社団 東京石心会

# 海燕

うみつばめ No.69 2015年11月

発行人：石井暎禧

編集人：辻田征男 発行：石心会本部

〒212-0013 川崎市幸区堀川町580番地

ソリッドスクエア東館4階

TEL 044-511-2266 (代) FAX 044-540-1135

http://www.sekishinkai.or.jp

## 理念特集

### 石心会グループの理念を論ずる。

石井暎禧

石心会グループ代表

企業の寿命は30年と言われています。

なぜそうなのかというと、一般に言われているのは企業を立ち上げてきた世代から次世代へのバトンタッチが難しいことです。では何を次世代に継承すべきなのか？ 私は創業の理念なканずく基本理念こそが、第一義的に継承されるべきものだと思います。

石心会グループは今年で創業42年目を迎えました。そこで今般、私は石心会グループ（以下、法人と称する）が創業以来掲げ、守ってきた基本理念とは何かということに時間をかけて検討しました。

基本理念とは、法人の基本的価値観であり、法人を取り巻く環境がいかに変わろうと大事に維持し、守り、引き継がれなくてはならない普遍的価値観です。そして、たどり着いた基本理念が **1. 「断らない医療」** **2. 「患者主体の医療」** の実践です。

#### 石心会は、理念経営を伝統とする法人です。

理念とは、法人の流儀です。法人をバスに例えるなら、このバスに乗る者は法人の流儀に沿って仕事をすることが要求されます。

なканずく、「基本理念」に沿った仕事ができない職員は、たとえ高い業績を挙げたとしてもいずれバスを降

りてもらうしかありません。なぜなら我々は人の命を預かる仕事を生業としているからであり、組織が一丸となって人の命に向き合う必要があるからです。

#### 基本理念についての解説

##### 1. 断らない医療

##### (NO REFUSAL POLICY)

「断らない医療」を英語で表現すれば「NO REFUSAL POLICY」です。しかし英語の本場であるアメリカでは、医療の場でこのような言葉はほとんど使われることはありません。なぜなら診療を断ることは医療者の倫理にもとるだけでなく、違法であり厳罰が待っているからです。

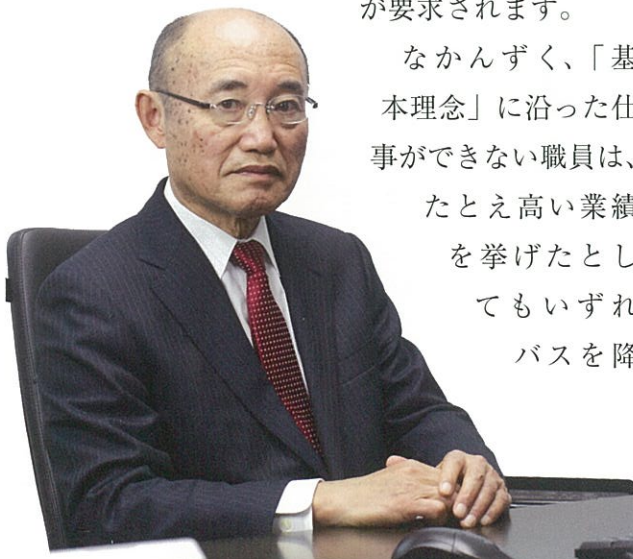
日本においても、医師法において診療を断る事は違法となっています。しかし、現実にはさまざまな場面で断りが生じており、それが原因で患者が命を落としても、めったに罰せられません。

我々は、このような現実を変えようと、法人創立以来一貫として「断らない医療」を職員に説いてきました。そして今、救急医療の現場においてはこれに近い形を実現できています。

そこで我々は、この精神をさらに徹底させ、かつ世代を超えて引き継がれるよう、ここに基本理念として策定することにしたものです。

##### 2. 患者主体の医療

医療者は治療を必要とする患者と向き合った時、患者にとって最善の医療を施さねばならないことは議論の余地のない不動の原則あり、患者からの





信頼を得るために医療者は厳しい修練を怠ってはなりません。しかし、その時忘れてはならないことは、治療とは決して医療者の独善で行うものでなく、病気を治そうとする患者の意志を尊重し、それに寄り添っ

た治療を行わねばならないということです。

「患者主体の医療」は、わが法人を取り巻く環境がいかに関わろうとも不変のもう一つの基本的価値観であり、わが法人の基本理念として採用する所以です。

## 「断らない」を続けて13年

山本晋 川崎幸病院副院長・川崎大動脈センター長

川崎市医師会誌寄稿記事より

私が川崎幸病院に大動脈疾患治療のための大動脈センターを作ったのが2003年、それ以来13年間、ただ一つのことに徹してきました。それは、「断らない」ということです。

急性大動脈解離の手術治療は、今でも常時受け入れてくれる病院はありません。近隣の病院からの手術依頼を川崎幸病院が断れば、おそらく次の病院を見つけることはほとんど不可能であると常に考えてきました。たとえば病院が満床でも、救急車内で急変するよりは病院の救急室で急変する方が“ましな対処”ができるはずです。開設当時は認知されていなかった大動脈センターでしたが、2-3年もすると神奈川県下でも「大動脈疾患なら川崎幸病院」という評判が少しずつ浸透してきました。

当時の大動脈センターは、わずか3名の医師で当直も含めすべての手術をやりくりしていました。理由は敢えて言いませんが、特に盆暮れ正月（それにクリスマスイブ）には、当院への手術要請が集中します。ある年の大晦日から元旦にかけて私は2件の緊急手術を立て続けに行っていました。そこにさらなる緊急手術の依頼があり、ICUにいた当時のレジデントは「これ以上は無理」と、その要請を断ってしまいました。

手術が終わりそのことを聞かされた私は、それまで苦労して積み上げてきた「川崎幸は断らない」という信頼を、このたった一回の「断り」ですべて失ってしまうのではないかと考え、愕然としたことを覚えています。

「断らない」には、もう一つの意味があります。川



崎大動脈センターに手術を依頼される患者の多くは、それまでいくつかの病院（あるいは大学病院）で手術を「断られた」患

者たちです。高齢だから、ハイリスクだから、難しい手術だからという理由で手術を断られる患者は後を絶ちません。患者の安全より医者の安全が優先されています。

川崎大動脈センターは批判を恐れず、どんな手術患者も受け入れることを謳っています。スタッフが日々の鍛練を欠かさず、ハイリスク・高難易度の手術を引き受けることができる技術を磨くことが、患者の信頼と安全を手に入れる唯一の方法だと考えています。

川崎幸病院は今、「No refusal policy」を根本理念に掲げて「断らない医療」の実践に全力で取り組んでいます。2012年に運用を開始した「ドクターカー」の要請は年を追うごとに激増しています。また、予定手術を含めた手術件数も年々増加し、大動脈センターの2つの手術室は月曜から土曜まで常に満杯です。当初は2名だった心外医師も今では13名となり、来年も新人が入局予定です。たった一つの「断らない」ということにこだわり続けた結果が、今日の充実した川崎大動脈センターを成す最大の要因であったとつくづく思います。KISS (Keep It Simple, Stupid)、これからも「断らない」を黙々と続けていくつもりです。